

はじめに

若い頃、全障研の初代委員長の田中昌人さんが「実践は3度総括することが大切である」というようなことを言われたとか、書かれていたとかを誰かに聞いたことがあります。その頃は、「3回総括したらいいのか」という程度にしか理解できていませんでした。「もしかしたら、こういうことだろうか？」と気づかせてもらえたのが、平野啓一郎さんの『本の読み方』でした。「一冊の本とのつきあいは、決して一期一会ではなく、もともとずっと長いものである。……『読んだら書棚』式の読書で、まずしばらくは本を寝かせる。そうして、適度な成熟期間をおいてから、もう一度その本を手にとってみる。その成熟期間とは、もちろん、自分自身の成熟時間である。」「自分にとって本当に大切な本を、五年後、十年後、と折に触れて読み返してみる。その印象の変化を通じて、私たちは自分自身の成長のあとを実感するだろう。」「本は『再読』することに価値がある。読む度に、新しい発見をし、新しい自分自身を発見する。」

私には、実践は「再読」（再総括）することに価値があると読めました。実践をレポートにまとめて1回目の総括をします。それを寝かせます。そして、自分の成熟期間をおい

てから2回目の総括をします。また寝かせます。さらに自分の成熟期間において3回目の総括をします。自分自身のものの見方や考え方が成熟すれば、実践の総括も深まって新しい発見があるのではないかと思います。新しい自分に出会えるかもしれません。田中昌人さんが言われた意味とは違うかもしれませんが、私は、同じ実践を機会があれば再読し、再総括してきます。

たとえば本書に登場する大山さんと一緒に学んだ性教育の実践です。52歳の大山さんは、性に興味があり、性的な発言をよくしていました。そのことで、職員に発言を勘違いされることもありました。私は、「からだの学習」「ふれあい文化の学習」「恋愛の学習」の性教育にとりくみました。「恋愛の学習（デートをしよう）」の授業をした後、実践をまとめ、レポートを書きました。ここでの総括は、大山さんが、恋愛体験でなければ味わえない喜びや悲しみを感じたことを中心に性教育の必要性を強調しました。そして、三木裕和さんと越野和之さんが中心で開催されている障害児教育の教育目標・教育評価研究会でこの実践を報告し、『障害のある子どもたちの教育目標・教育評価（重症児を中心に）』にこの実践を書きました。

2回目の総括は、「恋愛を学ぶことは教育目標になるのか」という問いを立て、教育目標になることを具体的な評価の仕方を示してまとめました。

3回目は、研究会でこの実践を報告するために再読し、大山さんの内面にかかわる総括

をしました。大山さんが、デートの最後の場面で、「キスして」と言いました。私は、この「キスして」という言葉は、大山さんの「あなたが好きです。僕のことにも好きになってほしい」という「告白」だったのではないかと思います。授業中にはどうしても言えなかったこの言葉を、転勤でもう会えなくなる憧れの職員に「言いたい、でも恥ずかしい、言いたいけど好きでないと言われたらどうしよう」という葛藤を乗り越えて「告白」したのではないかと考えました。人を愛するという価値を、「告白」という形で示した大山さんに人間の尊さを感じたと総括したのでした。同じ実践ですが、総括の視点が与えられたり、私自身のものの見方、考え方が変化したりすることによって、総括が発展していく体験をしたのです。

私は、1979年に肢体不自由養護学校の教員になり、31年間勤務しました。施設訪問学級に転勤し7年間勤務して定年退職しました。退職後、友人たちとNPO法人を設立し、障害の重い人たちの生活介護と放課後等デイサービスの事業所を始めました。各章の実践は、この44年間の実践の一部を報告したものです。いろいろな研究会で報告した実践ですが、今回再読して、新たに総括をしたものもあります。今後さらに再読・総括をしていくのだらうと思っています。

2024年度の一年間、全国障害者問題研究会の機関誌『みんなのねがい』に実践を連載させていただきました。本書は、I部に連載した内容と新たなコラムを加筆し、II部に

内容を深めるための鼎談や解説をあわせて収録したものです。
障害の重い人たちと私とのかなり個別的な・体験的な教育・福祉実践の報告になっていて、一般化できないところもあると思います。だからといって、個別的・体験的な実践には意味がないということではないと思うのです。実践とは、本来、個別的で、体験的な要素を多く含んで始まるものではないでしょうか。本書が、みなさんの個別的・体験的な実践の始まりを励ますものになることを心より願っています。

* 本書に出てくる名前は、すべて仮名です。
* 本書に出てくる写真は、本文とは直接は関係ありません

もくじ

はじめに 3

I 私に人生と言えるものがあるなら 9

1	人生どうにかなるさ	追伸 1	18	10
2	一日は人生を刻むもつとも大切な時の単位	追伸 2	27	19
3	悲しみは人生を豊かにする	追伸 3	36	28
4	人生、苦勞は買つてでもしよう	追伸 4	45	37
5	わがケアは魂におよび	追伸 5	54	46
6	人生を再発見する	追伸 6	63	55
7	運がいいとか悪いとか	追伸 7	72	64

Ⅱ 語り合い、深め合う

8	人生、一人じゃ生きていけない	追伸 8	81	73
9	人生、わかつちやいるけどやめられない	追伸 9	90	82
10	明日がある	追伸 10	99	91
11	人生、どう生きるべきか	追伸 11	108	100
12	楽器は自ら鳴り響かない	追伸 12	117	109
1	鼎談 障害の重い人たちと、ともに学び、ともに生きる			119
	鼎談を終えて「語り残したこと			
2	解説 考え抜き、考え続ける教師 越野和之			120
	おわりに			133
	参考文献			141
				145

I

私に人生と言えるものがあるなら

